

安城市市民参加条例と協働に関する指針を考える市民会議⑨

2010/7/30

全体トーク「素案のたたき台～よりよくするために①」まとめ

①前文

赤(入れる)7: 青(入れない)15

- | | | |
|--------------|---|----------------|
| ○理念をうたうべき | ⇔ | ●手続き条例だからいらない。 |
| ○読みやすいからよい | | ●目的に理念を書くべき |
| ○入れるとしたら3行で。 | | ●短ければ短いほど良い。 |
| ○思いを入れられる。 | | |



再度、挙手！

赤(入れる)6: 青(入れない)16

結論として、「素案としては入れない」

②推進計画の可否

- ・条例で担保しよう。
- ・形骸化してしまうという事は、民意のレベルの表れ。
- ・条例に入れなくても良いのでは。
- ・形骸化の恐れ。
- ・ビジョンが見えない。見えるといいな。
- ・推進計画の度合いがわからない。

③ボランティア・ボランティアコーディネーター

- ・市民参加の実施ってボランティアなしで出来る？
- ・市民参加ってどういうものか、担保として入れたい。
- ・固有の技術としてボランティアコーディネーター
- ・「企画立案」だけでなく、「実施」にかかる市民参加もあるはず。協働だけではない。
- ・「協働の指針」で検討すればよいのでは？
- ・コーディネーターをボランティアにこだわる必要ない。地域町内会でも、老人会でも。



- ・コーディネートの機能は大事。